



IRPA 会報

放射線防護(RP)専門家による, 放射線防護(RP)専門家のための



本号の内容:

- 第15回IRPA国際会議の最新情報- 2
- アルゼンチン放射線防護学会：過去・現在，未来- 4
- カメルーン放射線防護学会の最新情報 - 5
- ルーマニア放射線防護学会(RSRP) - 6
- クロアチア放射線防護学会(CRPA)の第2回若手専門家会合 - 7
- 循環経済に関連するNORM残留物管理に関するENVIRONETネットワークエッセイコンテスト - 8
- 追悼: Richard V. Griffith氏- 9

この"IRPA会報"の日本語訳は、IRPAの公式的な翻訳ではありません。そのため、IRPAはその正確性を保証するものではなく、またその解釈や使用がもたらすいかなる結果についても、一切責任を負いません。

This Japanese translation of "IRPA Bulletin" is not an official IRPA translation; hence, IRPA does not guarantee its accuracy and accepts no responsibility for any consequences of its interpretation or use.

Your IRPA Commission on Publications

Chair: Christopher Clement; Vice Chair: Bernard LeGuen; Bulletin Editors: Chunsheng Li & Ali Shoushtarian; Associate Societies Liaison: Adelene Gaw; Website: Managers Andy Karam & Chris Malcolmson; Social Media Managers: Sven Nagels & Chris Malcolmson; Media Reviewers: Sven Nagels, Young-Khi Lim & Hattori Takatoshi; Proceedings Advisor: Haruyuki Ogino



IRPA15の最新情報

IRPAと韓国放射線防護学会 (KARP) は2021年1月18～22日、韓国ソウルにて国際放射線防護学会の第15回国際会議 (IRPA15) を共催します。この会議は“放射線防護文化と科学との橋渡しー公衆の共感を広げる”のテーマのもとで開催されます。全体会議と特別セッション、さらに口頭発表、ポスターセッション、共同ワークショップ、サテライトミーティング、エキシビジョン、社交プログラム等のすべてのプログラムが世界的に著名なスピーカーにより行われます。IRPA15 の開催予定地はアジア最大のコンベンションセンター、COEXです。早期登録とポスターセッションの要旨提出はまだ受け付けています。ぜひwww.irpa2020.org にある公式ウェブサイトアクセスしてください。大事な情報をお見逃しなく！

注：全体会議、特別セッション、技術セッション（重要トピックのセッションを含む）、主題セッション、リフレッシュコース、4つのサテライトミーティングといった、以前計画されていた全てのプログラムは今も有効です。

- ・ COVID-19 に関する最新情報：

私たち国際社会は、日々の生活に影響する最も恐ろしい脅威、ウイルスのひとつに直面しました。しかし、混乱と不安の中でも、希望と結束に向けて認知すれば、私たちは皆落ち着いて日常生活に対処できるようになります。国際社会においてCOVID-19の感染・影響が安定することは、IRPA15の成功に係る重大なファクタです。韓国は現在、公衆の安全のための“distancing in daily life”（日常生活での距離の確保）キャンペーンの実践中です。韓国内で新たに確認された(感染)の数は安定的に減少しています。IRPA15組織委員会の全メンバーは現状を綿密にモニタリングし、我々の社会の安寧を優先しつつ、放射線防護の専門家としての責任感を貫き、共有するための手段について議論しています。従って、IRPA15は国際社会に希望と結束をもたらすイベントのひとつとなる準備はできています。

- ・ ウェブサイトの改造：

改良・リフレッシュされた最新のIRPA15の公式ウェブページをぜひご覧ください。IRPA15事務局は、ウェブページを定期的に更新していますから、適宜更新チェックをしてみてください。新たなツアーの計画、ソーシャルプログラム、宿泊施設予約システムは間もなく更新されます。これまでと同様、IRPA15オンラインサイトで便利に手続きを進めることができます。さらに出展者・スポンサーのための最新のオンラインアプリも確認をお願いします。修正された「重要な日付」の確認もお忘れなく。

- ・ 重要な日付：

注意！ ポスター発表の要旨受付を行っています。提出はお急ぎください！

Content	Deadline
Poster Abstract Submission	31 August 2020
Poster Abstract Acceptance Notification	30 September 2020
Full Paper Submission	30 November 2020
Early Online Registration	16 October 2020
Standard Online Registration	31 December 2020



IRPA-15の最新情報

・ 予稿提出の状況

参加登録をされた皆様のIRPA15への活発な関与に感謝申し上げます。COVID-19感染拡大以前の時期に、74か国から884の予稿が提出されました。ポスター予稿の提出は2020年8月末まで可能です。放射線防護専門家の専門分野における強化・増強への期待は、従来のこのような会合に比して高くなっています。ぜひ同僚の方々にもIRPA15への参加とポスター要旨提出を勧めてください。また、全体会議での著名な座長・講演者のラインナップもぜひご確認ください。

NO	Lecture Title	Chair	Invited Speaker
1	Sievert Lecture	Roger Coates (IRPA, UK)	Eliseo Vañó (Complutense Univ., Spain)
2	Public understanding and communication: Overcoming communication challenges when facts, emotions, and feelings collide during and after a radiological event	Hiroko Yoshida (Tohoku Univ., Japan)	Vincent Covello (Center for Risk Communication, USA)
3	Health effects and inference of risks due to radiation exposure	Sisko Salomaa (STUK, Finland)	Peter Jacob (Helmholtz Zentrum München, Institute of Radiation Protection, Germany)
4	Radiation protection culture	Roger Coates (IRPA, UK)	Helen Rycraft (UK), Bernard Le Guen (IRPA, France)
5	Fukushima: Radiation risk and public health	Ludovic Vaillant (CEPN, France)	Gillian Hirth (UNSCEAR, Australia), Kenji Kamiya (Hiroshima Univ., Japan)
6	Non- ionising radiation: Developing the system of protection	Wolfgang Weiss (German-Swiss Association for Radiation Protection, Germany)	Eric Van Rongen (ICNIRP, Netherlands), Emilie Van Deventer (WHO, Switzerland)
7	Ethics in radiation	Jim Thurston (Dorset County Hospital NHS Foundation Trust, UK)	Deborah Helen Oughton (NIMRU, CERAD, UK), Kun-Woo Cho (KINS, Korea)
8	The future of the system of radiological protection	Wolfgang Weiss (German-Swiss Association for Radiation Protection, Germany)	Roger Coates (IRPA, UK), Claire Cousins (ICRP, UK), Maria Perez (WHO, Switzerland), Uhm Jaesik (NSSC, Korea)

講演タイトル

1. シーベルトレクチャ
2. 公衆の理解とコミュニケーション: 放射線に係るイベントの最中・終息後の事実、感情、感覚の衝突時における克服のためのコミュニケーションチャレンジ
3. 放射線被ばくによる健康影響とリスク推定
4. 放射線防護文化
5. 福島: 放射線リスクと公衆の健康
6. 非電離放射線: 防護体系の発展
7. 放射線の倫理
8. 放射線防護体系の未来

・ 3rd アナウンス :

現在、第3弾となる新たな告知の見直し・改良を計画中です。2020年6月末までに公式ウェブサイトからダウンロードできるようになるでしょう。IRPA15は可能な限り環境にやさしい会議であろうとしています。これを受け、3rdアナウンスは電子書籍スタイルで出版・配布される予定です。3rd e-アナウンスには、参加登録者の利便のためアップデートされた情報や新しい日程が含まれます。登録者の皆さんには、電子メールにてできるだけ早くお送りしたいと考えています。

・ インカレッジ・メッセージ

IRPA15 国際会議の組織委員会は同会合の準備中、想定外のパンデミックに襲われました。世界中から届く、私たちの生活を脅かす多くの衝撃的なニュースを受け、私たちはあらゆる面で追い詰められました。しかし最後には、私たちはこの状況を打開するでしょう。この危機の際に、私たちは COVID後世界に向けた準備をし、放射線防護の専門家としての務めを推し進める必要があります。IRPA15組織委員会は、謹んで皆さまの参加と関与をお願いいたします。COVID-19時代の放射線防護専門家としての重さを感じつつ、組織委員会は完璧な状態で会議を行えるよう準備を進めています。



アルゼンチン放射線防護学会：過去，現在，未来 (SAR執行委員会)

アルゼンチン放射線防護学会（SAR）は1965年、放射線防護のパイオニアたちのグループにより設立されました。彼らはまた先見の明をもち、全ての人々の便益のために放射線防護の実践における前進と改良を、知識・意思・能力の総合力により目指そうと考えました。

SARは長年にわたり、放射線防護に係る科学的活動、知識の交換、ベストプラクティスを促進するという創立者たちの前提を常に基礎とし、国、地域、国際の各レベル多様な活動に関与してきました。常に将来に目を向けています！しかし“SARの歴史”を振り返り、著すまではなされていなかった活動もありました。2019年10月、第12回アルゼンチン放射線防護会議の間に、50年以上にわたりSARが行ってきた活動を集大成した本が出版されました。

http://radioproteccionsar.org.ar/downloads/historia_sar.pdf

この会期中、様々な放射線防護に関するトピックスに関する口頭発表が行われました。また、IRPA15の若手科学賞（YSA）にてSAR代表とする若き専門家を選ぶコンテストも行われ、Natalia Lendoiroが表彰されました。

長年の間、SARは様々な場所で、常に対面（フェイス・トゥ・フェイス）の形で放射線防護講座を開催してきましたが、現在は、Covid-19期間においても訓練を継続できるよう、また、国内各地にいる放射線取り扱い業務のための訓練が必要な全ての人々に届けられるよう、口述コースのある教育依頼の全てをバーチャル形式に変更しています。

SARは、その未来は新世代の放射線防護専門家たちのなかに根ざすと考えています。それは2年前、若手SARネットワーク（Red SAR Joven）が、アイデアを交換し、話し合い、若手会員のニュースや仕事を周知するための場を新しいツールを使って創造することを目的として開始された理由でもあります。Cinthia Papp をチェアとするRed SAR Jovenは、若手専門家たちが自身のプロジェクトを発展させ、年長の専門家たちの経験や育成指導を活用することのできる、彼・彼女らのための特別な場です。この構想は大変うまくいき、さらにはSAR会員に“SARの歴史”の新たなページを追加してもらう励みにもなっています。



(SAR前会長と執行委員会メンバー。第12回アルゼンチン放射線防護学会での“History of SAR”プレゼンテーションに際して)



カメルーン放射線防護学会の最新情報 (DR SAIDU, CRPS会長)

カメルーン放射線防護学会（CRPS）は2012年9月に設立され、2013年7月にオタワで開催されたIRPA理事会の第65回会議で国際放射線防護学会の第49番目の加盟学会として承認されました。本学会の目的は、知識、情報、研究を促進し、現場の専門家にネットワーキングの機会を提供します。CRPSの活動には、放射線科学の研究の奨励、基準の策定、放射線安全情報の普及が含まれます。

CRPSには現在、電離放射線を使用する活動及び/又は原子力科学技術の研究に携わる70人のメンバーがいます。その何人かはチャド、コンゴ-ブラザビル、中央アフリカ共和国のような隣国から来ています。環境放射能と線量評価は、地質鉱業研究所の原子力技術部門、ヤウンデ第1大学の科学部の原子核物理研究所、ドゥアラ大学の原子分子物理学と量子光学センターの研究室とCRPSが共同で実施した最も進んだ活動の1つです。国際原子力機関（IAEA）、日本の弘前大学、スイスのローザンヌにある大学病院の放射線物理研究所などの一部の国際的なパートナーは、カメルーンで次のような研究分野の発展に重要な役割を果たしました。

- 屋内ラドン被ばくによる公衆被ばくを制御するための国家的ラドン計画
- ラドンリスクのマッピング
- 鉱業および鉱石の産地の車による調査
- 公衆への自然放射線被ばく
- 所管官庁に対する公衆および環境の放射線防護に関する勧告
- 放射線生態学、放射線防護、原子力計装に関する2012年、2013年、2015年、2017年の全国会議/ワークショップの組織
- カメルーンのヤウンデで、2017年11月27～29日に公衆への自然放射線被ばくとその健康への影響に関する国際会議の組織
- 放射線防護と線量評価を強化し、カメルーンのヤウンデ第1大学の科学部の放射線計測学と原子炉物理学を含めることによる、大学院レベルでの教育カリキュラムの更新への貢献。

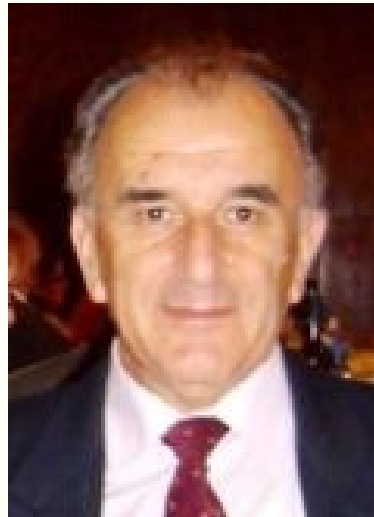
今後の活動：

- 2020年9月の放射線防護に関する全国ワークショップの組織
- 2020年1月に韓国ソウルでIRPA15へのCRPS代表の参加
- 電離放射線の有害な影響について病院の放射線使用者の訓練





ルーマニア放射線防護学会(RSRP)
(CONSTANTIN MILU, RSRP会長)



ルーマニア放射線防護学会（RSRP、www.srrp.ro）は1990年5月に設立されました。1992年以来活発なIRPA加盟学会であり、2000年以来、IRPA加盟学会の中央ヨーロッパ学会の会員です。RSRPは、放射線防護分野のルーマニアの専門的な学会であり、非擁護、非営利、そして非政府組織です。私たちの目標は次のとおりです。（1）公衆と放射線作業者を電離放射線の有害な影響から防護すること、（2）全国規模での放射線防護の科学的、技術的、医学的および法的側面を発展させて周知すること、及び（3）電離放射線の使用の利益/リスクを国民社会に知らせること。

RSRPの概要：

- 正会員：78人
- 年次会議（80～100人の参加者で、医療被曝、ラドン被曝、福島、安全文化をカバーするトピック）。最近の4つの会議は、ルーマニアにおける理事会指令2013/59 / Euratomの実施に関するものでした。
- 過去30年間の国際および地域のIRPA会議への参加。欧州IRPA学会との良好な協力関係。
- ルーマニアの一般市民が関心を持つ、放射線防護問題に関するソーシャルメディアでの正しい位置付け。
- 2007年9月24～28日にルーマニアのブラショフで「放射線防護の地域的および世界的側面」をテーマにした中央および東ヨーロッパのIRPA地域会議を成功裏に開催しました。27カ国と多くの国際機関から合計330人の参加者が集まりました。



クroatia放射線防護学会(CRPA)の第2回若手専門家会合 (MARINA POJE SOVILJ, MARIJANA NODILO)

クroatia放射線防護学会 (CRPA) の2回目の独立した若手専門家会議が、2020年2月11日にザグレブのルツェルボシュコヴィッチ研究所で開催されました。会議の主な目的は、CRPAの若いメンバー間の科学的協力を集めて強化することと、今日若者が直面している問題について話し合うことでした。会議の初めに、CRPAの会長と事務局のInes KrajcarBronićとŽeljkaKneževićMedijaが参加者に挨拶しました。会議には12人の参加者が出席し、9つの講義が行われました。導入部の後に、参加者は各講義の後にディスカッションを行いながら講義を受けました。議論の間に多くの協力の機会が開かれました。クroatia放射線防護学会 (CRPA) の若手専門家の次の独立した会議は2年後に開催されます。





循環経済に関連するNORM残留物管理に関する ENVIRONETネットワークエッセイコンテスト



IAEA

International Atomic Energy Agency

NORM2020会議は、国連の持続可能な開発目標（SDG's）に沿った持続可能性の原則が、開発目標をバックアップするために最も重要である将来の展望を確立することを望んでいます。これに関連して、原材料と天然資源を効率的に使用することは戦略的に重要であり、これらは廃棄物の管理階層と廃棄物の排除と資源の責任ある循環的使用の促進を目的とする循環経済慣行の原則と関連しています。

NORM2020会議は、次の3つのタスクグループを設立したIAEA-Environet（環境管理と修復に関するネットワーク）NORMプロジェクトの目的を拡大します。

- i) NORMのポリシーと戦略の構築に関するガイダンスの提供を目的とする1つ目のグループ
- ii) 加盟国でNORMインベントリーを確立するための戦略の定義に関する2つ目のグループ
- iii) 異なるNORM残留物および廃棄物管理アプローチのコスト見積りの確立に関する3つ目のグループ。

NORMプロジェクトの範囲では、Environetは若い専門家（35歳未満）に、廃棄物管理の階層と循環経済に沿ったNORM残留物と廃棄物を管理するための革新的な戦略とアプローチを概説するエッセイを作成するよう呼びかけています。エッセイは、残留物/廃棄物が発生する業界、意図されたアプローチの実現可能性、及び適用分野を示す2ページの長さにする必要があります。経済的な考慮事項、安全性/規制の影響、及び利害関係者の受容性も考慮される場合があります。エッセイは原著で、英語で書かれる必要があり、800ワードに制限されます。

エッセイは、8月14日までにNORM2020会議のメール（NORM2020@iaea.org）に送信する必要があります。提出されたエッセイは、Environet NORM Projectの議長と作業グループのリーダーによってレビューされます。最高のエッセイには、一括払い（航空券+会議期間中の宿泊）が与えられ、NORM2020会議の閉会セッション中に20分間のプレゼンテーションを行う権利が与えられます。



追悼: Richard V. Griffith氏 (KENNETH KASE, 元IRPA 会長)



Richard "Dick" Griffith氏は、2020年2月16日、カリフォルニア州サクラメントにあるUCデイビスメディカルセンター病院で、82歳で亡くなりました。Dickは、1937年12月18日にイリノイ州エヴァンストンのジョージとジョセフ・グリフィスに生まれ、イリノイ州スコークで育ちました。彼はノースウエスタン大学を卒業し、空軍で国に務めを果たし、空軍予備部隊の大佐を引退しました。

Dickは、カリフォルニア大学バークレー校から原子核物理学の修士号を取得し、ローレンスリバモア国立研究所（LLNL）に20年以上勤務しました。LLNLでの彼の最初の役職は放射線カウンティングラボの監督者であり、最後の職は彼が10年間務めた特別プロジェクト部門のリーダーでした。LLNL在籍中、Dickは、中性子線量測定用の原子核飛跡検出器の開発に取り組みました。彼はその研究と超ウラン核種用肺カウンタ施設による校正に使用するための現実的な胴体ファントムの開発に関する国際的な評価を獲得しました。

LLNLでの在職後、Dickと妻のMarshaは、国際原子力機関（IAEA）の放射線廃棄物安全部門の外交官と技術顧問を務め、国連での地位を受け入れた後、10年間オーストリアのウィーンに移住しました。IAEAにいる間、彼は放射線カウンティング機器及び設備に関する加盟国のコンサルタントを務め、IAEAの放射線安全文書の作成を調整しました。LLNLとIAEAの仕事に加えて、Dickは、国際放射線防護学会（IRPA）の理事会に2000年から2012年まで出版責任者として、また長年にわたってHealth Physics Journalの編集者として務めました。

IAEAを退職した後、DickとMarshaは、カリフォルニア州ウッドブリッジに居住していました。Dickは彼の教会で活動し、ウッドブリッジグリーンズアソシエーションの理事会のボランティアであり、ロエルシニアセンターミールオンホイールズのボランティアでした。彼はまた、庭師のマスターになりました。Dickは、くだらないジョークを話すのが大好きでしたが、それらのジョークの質は家族での議論の対象でした。彼は、Marsha、親しい友人、家族との毎年恒例のリノのホットオーガストナイトへの旅行を楽しみました。彼は素晴らしく愛情があり、思いやりがあり親切で面白かった。そして、ジョニー・キャッシュとロイ・クラークを聞くのが好きでした。